



2023年6月1日発行
 公益財団法人とちぎYMCA
 〒320-0041
 宇都宮市松原2-7-42
 Tel 028-624-2546
 Fax 028-624-2489
 www.tochigiyymca.org
 発行人 / 塩澤 達俊
 編集人 / 公益財団法人とちぎYMCA

YMCA News



人と“つながる”YMCA



表紙の写真から：4年ぶりの開催となった2023北関東YMCA赤城プレキャンプにて。

ぐんま・茨城・埼玉・千葉・とちぎの各YMCAからリーダーが参加。リーダー同士の交流の様子です。

YMCAとの出会いは息子が4歳の時、さくらんぼ幼稚園に通う男の子のお母さんから「体操教室に行ってみない？」とお誘いでした。それから事あるごとにYMCA企画のイベントや野外活動に参加しました。息子は一人っ子なのでこれからの人生、様々な人とコミュニケーションが図れる「人との繋がり」を大切にしたいの思いがありました。その思いを手助けしてくれたのがYMCAのイベントや野外活動でした。初めて会うスタッフの方やボランティアのおにいさん・おねえさん、学年の違うお友だちも明るく快く迎えてくれました。私から離れ先ずは半日から徐々に一日、一泊まで、魚釣り、水遊び、カレー作り、初お泊りもスタッフの方々の全力を尽くした優しい対応に息子も一回り成長していく姿が実感できました。なぜならば、どこに通っても「初めまして、こんにちは、ありがとうございます」の挨拶と、友だちとコミュニケーションがとれる様になり、次第に身の回りのことも一人でできるようになっていったからです。年中から幼稚園に行くようになってからもいろんなものに興味を持ち始め、特にキャンプで自然と触れ合ったことで、自ら魚釣りがしたいと父親とよく出かけるようになりました。

また、仲間の大切さを学んだことで誰とでもすぐに友だちになれる様になり、学童野球を始めた時も仲間の大切さを実感していたと思います。学童野球では監督・コーチ・部員・部員のお父さんお母さんと皆が一丸となって、親子共々熱い良い経験をしました。これもYMCAのプログラムに参加させて貰ったお陰と今更ながら感謝しております。

学童野球を始めてからは参加する事が少なくなりましたが、ふとしたきっかけで2010

年から息子ではなく、私がYMCAの皆さんと関わることになりました。これもご縁でお世話になったスタッフの方々と再会できても嬉しかったことを覚えています。YMCAが指定管理として運営する宇都宮市青少年活動センター（トライ東）にて、4歳から小学生の子どもたちの音楽教室のサークルを立ち上げました。子どもたちが音楽室に入ってくる時の「こんにちは」の表情でその子のその日の調子がわかるようになっていきました。学校で楽しいことがあった、悲しいことがあった、あるいはお母さんに叱られたと、ピアノだけではなく私も子どもたちのお話を聞ける、子どもと“繋がれる”場所でもあります。レッスが終わると「ありがとうございました」と笑顔でハイタッチしてくれて、充実感を得られる場所です。また、ピアノ発表会にはご家族やおじいちゃんもおばあちゃんも聞きにきてくれます。子どもたちだけではなく、子どもの成長を見守るお母さんたちともコミュニケーションをとって寄り添えていけたらと思っています。

冒頭息子には「人との繋がり」を大切にしたいの思いを書きましたが、YMCAの皆様のお陰で私自身もたくさんの人とコミュニケーションが図られ「人との繋がり」を頂き、更には子どもたちに学ぶ機会を貰っていることに感謝しております。今後も宜しくお願い致します。

とちぎYMCAメンバー保護者
 佐藤 薫

とちぎYMCAの使命。 ~みつかる。つながる。よくなっていく。~

2023年度とちぎYMCA年間聖句

主に望みをおく人は新たな力を得、鷲のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れぬ。」(イザヤ書40章31節)

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」(マタイによる福音書11章28節)



認定こども園 さくらんぼ幼稚園 「 春の遠足 」



【年長組】
年少組のお友だちと手をつないで八幡山公園までいきました。年少さんの手をしっかり握って、優しくリードする姿に大きな成長を感じました。楽しみにしていた宇都宮タワーでは、タワーから自分の家や幼稚園を探し、大興奮な子どもたち。宇都宮の景色を満喫してきました。広場で美味しいお弁当を食べたり、アドベンチャーUで思いっきり遊んだり楽しい1日を過ごすことができました。
うめ組担任 牛山 愛



【年中組】
年中に進級し、たくさんお散歩の練習をしました。時には歩道橋を登り降り、時にはお弁当の入ったリュックを背負って歩く練習。全て頑張ることができたのは、遠足がとてとても楽しみだったからです。遠足当日は誰一人弱音を吐かず最後まで歩き、念願の八幡山公園では弾けるほどの笑顔で遊んでいました。楽しみの一つだったお弁当は、つり橋を渡ってタワーの麓で食べました。その後、動物園の方まで行き大満足の遠足になりました。心も体も一つ大きく成長した子どもたち、これからも一緒に様々な事を乗り越えて楽しい一年間にしていきたいと思ひます。
ゆり組担任 平石 くるみ

【年少組】
お天気に恵まれ遠足日和でした。年長さんと手を繋いで歩きました。一緒にお散歩をして歩く練習をしていたこともあり、皆上手に歩くことが出来ました。八幡山公園では、思いおもいに遊具でたくさん遊び笑顔いっぱいの子もたちでした。待ちに待ったお弁当とおやつ時間は「おいしいね〜!」とほっぺをふくらませて、モグモグ嬉しそうに食べる姿が微笑ましかったです。「また公園行く?」ととても楽しめたようで良かったです。またみんなでお出かけしようね!
すみれ組担任 戸室 侑子



【まあがれと組・ぼびい組】
5月19日 中央公園まで春の遠足に出かけました。初めてのバスでのお出掛けにみんな大喜び。窓から見える景色も普段とは違った街並みに見えたかもしれません。中央公園では池の鯉を眺め、新緑の中を散歩し園内の公園でもたくさん遊びました。今回は初めての遠足なので園に戻ってから給食を食べました。秋の遠足では公園でお弁当、楽しみです!
本澤 利香



子どもの家だより ～細谷小子どもの家(アドベンチャークラブ)～ 「 新年度を迎えて・・・ 」



今年も新年度が始まりました。細谷小子どもの家は今年度の利用人数は通年預かり児童が1年生33名、2年生30名、3年生21名、4年生1名の計85名。長期預かり児童が1年生5名、2年生2名、3年生3名、4年生5名、5年生1名の計16名。総勢101名でのスタートを切りました。

4月の1ヶ月は毎日があわただしく過ぎ5月を迎えた今1年生も慣れない生活からクラブの生活にも慣れ、1人1人がここで

の活動が出来る様になりました。子どもたちにとっての放課後の学童クラブは異学年で過ごす集団生活の学びの場です。上級生にとっては1年生に目を向け、自分たちが経験してきた事を伝える事で気付きや成長につながる時期です。毎年同じ事をくり返し、歴史を紡いできています。

5月に入りクラブの最初の活動として、母の日のプレゼントを全員で作りました。大好きなお母さんへのプレゼントとあって、どの子も一生懸命に仕上げる事が出来ました。もらったお母さん方もとても嬉しそうに受け取っていました。

新年度はスタートしたばかりですが子どもたちの充実した放課後や長期休暇の生活の場として様々な体験ができる、コミュニケーションが取れる場として職員一同心を合わせ子どもたちと向き合っけてゆきたいと思ひます。主任支援員 平野 悦子

親と子の居場所めいめい

「 シャボン玉ブーム到来 」



暑い日が多くなってきていますがめいめいを利用する皆さんはとても元気に過ごしています。

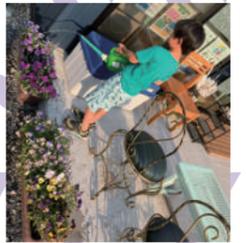
花壇の花や敷地内の木々が青々とし、子どもたちが草むしりや花に水やりなどをしてきています。

最近では近くの公園に行くことも増え公

園で元気いっぱい遊んでいます。公園に行くことに慣れてきたお友だちは率先して横断歩道で手を挙げ、ほかのお友だちに教えている姿が見受けられ子どもたちの成長を感じられています。

また、めいめいでは最近シャボン玉がブームになっています。シンプルなストローのシャボン玉や、剣の形をしたもの、音が鳴り自動でシャボン玉を出してくれるものなど様々なシャボン玉があり、子どもたちがそれぞれ自分で遊びたいものを選び、遊んでいます。自動でシャボン玉を出してくれるものは人気なため子どもたちが自ら順番や時間を決めて遊ぶ様子も見られます。

これからもっと暑い日が続くと思ひますがめいめいに集う皆さんが元気に利用できることを願っています。



ようとう保育園

「 看護師 まー先生 」



開園時より、看護師として勤務している小川真由美と申します。今年で9年目となりました。保育士さんと一緒に主に乳児保育を担当していますが、子どもたちの与薬(粉薬や点眼薬)や、けがの簡単な処置や発熱時の対応、身長・体重測定の記録や管理等もしています。嘱託医(小児科、歯科)の

先生による定期健診後、心身や歯の健康状況を保護者に伝えることも重要な役割です。日頃忙しく時間がないから、子どもが嫌がるから等、受診を後回しにしがちな歯の治療については、保護者の気持ちに寄り添いながら丁寧に対応することを心掛けています。



ようとう保育園は戸外あそびを重んじているので、毎日しっかり体を動かすことで大きなけがや事故の防止に繋がっていると思ひます。ですが、園で生活している間にはとげが刺さってしまうなど、擦り傷等小さな事故やけがは避けられません。そんな時、痛みや不安から泣いてしまう子に、「大丈夫。すぐ痛くなるよ。」と手早く処置を施すと、「えっ!?痛くない!」と目を輝かせて「ありがとう。」と言われた時には、とても嬉しくなります。また、お風呂が苦手な子には「きれいにしようねー。気持ちが良いねー。」と言葉をかけながら沐浴シャワーを丁寧に行うことで、水に対する恐怖心を和らげ、家庭でも入浴の時間が楽しくなると保護者の方からお話を頂くこともあり、そんな時も嬉しくなります。

これからも保育士さんと密に連携を図りながら、笑顔を絶やさず、子どもたち、保護者の方が安心して園生活が送れるようサポートしていきたいと思ひます。 小川 真由美

「 国際協力募金2022ご報告 」

2022 年度も国際協力募金へご協力いただきまして誠にありがとうございました。たくさんの方にご支援いただき、総額 643,425 円(＊ウクライナ支援、トルコ・シリア地震支援指定募金含む)が集まりました。

1月～3月に行いました国際協力募金強化期間のお年玉募金ではお子様から大人の方までたくさんの方から応援メッセージもいただきました。皆様からいただいた温かいお気持ちは、とちぎ YMCA と長年交流のあるフィリピンナボタスタラの学生への奨学金、日本 YMCA 同盟を通して世界でサポートを必要としている方々への支援、とちぎ YMCA の国際協力プログラムの資金、ウクライナ支援、トルコ・シリア地震支援募金などに使わせていただきます。

2023 年度も引き続き『夢や希望をもち、生きる楽しさや喜びを感じられるように。どこに暮らしていても、安心して学び、遊べるように。私たちが誰かの犠牲の上に生きることがないように。分かち合い、助け合い、平和な社会を築いていくように。』国際協力募金へのご協力をよろしくお願いいたします。



＊トルコ・シリア地震支援募金は AAR 難民を助ける会と日本 YMCA 同盟を通して ACT アライアンス (ACT Alliance) に寄付させていただきました。

サマープログラムがはじまります!

とちぎYMCAではこの夏も子どもたちの全人的成長を願い、サマープログラムを計画しております。YMCAのキャンプは、「**為すことによって学ぶ (Learning by doing)**」を理念とした野外教育活動です。その理念は、「どのような教育的な経験も、子ども(対象者)の興味・関心から離れていたならば、その経験は子ども(対象者)にとって本質的なものにならない。よって興味と自発性に基づいて子どもを導く」という考え方に導かれたものです。

子どもたちは、友だちと一緒に自然の中でさまざまな活動をするによって、人間関係を学び、自然・社会への関心を深めていきます。YMCAでは、子どもたちが安全に、安心して、たくさんの自然に触れながら、仲間と一緒に思いっきり遊ぶことを通して、一人ひとりの豊かな成長を育みます。

～宿泊キャンプ～

日光ほしぞらキャンプ (8/3-5)

さしまチャレンジキャンプ (8/21-22)

～デイキャンプ～

チョイス①益子の街を探検しよう (7/27)

チョイス②魚つかみ&水あそび (8/25)

～3DAYS プログラム～

ICEP3DAYS (8/1-3)

アドベンチャー3DAYS (8/7-9) ウェルネスプログラム

～ウェルネスプログラム～

とちぎYMCAサッカーフェスティバル 2023 (7/29)

短期水泳 1期 (7/24-26)

短期水泳 2期 (8/16-18)



6月16日(金) 12:30より申込スタート!

「ポジティブネット」 Positive Net

互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと。課題の多い社会のなかで、それは、生きるためのひとつの選択肢となっていく。私たち日本のYMCAは、グローバルなネットワーク基盤を活かしてポジティブネットを広げ、希望あるより豊かな社会を創ります。

ワークショップを開催します!

持続可能な世界を作るためのSDGsワークショップに参加しませんか?

カードゲームで目標達成のために試行錯誤、悩みながら様々な選択をして進めていきます。

そして最終的に私たちの未来がどんなものになるか考えてみましょう・・・!

日時: 7月29日(土) 13:30～16:00

講師: 流 和歌子氏 (2030SDGsゲーム公認ファシリテーター)

対象: 一般 (小学校高学年から参加可)

定員: 45名

参加費: 無料

主催: 公益財団法人とちぎYMCA

*会場: 栃木県国際交流協会 (詳細は、右記チラシ参照)

SDGsの実現に向けて



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2015年に国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するための開発目標です。17のゴールから構成され、地球上の誰一人として取り残されないことを誓っています。私たち一人ひとりが社会課題を「自分ごと」として考え、行動することが第一歩となります。

～持続可能な世界を作るためのSDGsワークショップ～ 未来の地球とわたしたちのためにできること

最初に、与えられたお金と時間を使ってプロジェクト活動を行うゲームをします。あなたはゴールを達成するため、悩みながら様々なことを選択して進めていきます。そうしてゴール達成後に作られる2030年の世界はどんなものになるのでしょうか・・・。

さて、7年後の世界を考えていくと、...「貧困」や「飢餓」「教育」「ジェンダー平等」「気候変動」などSDGsを達成すること、現実、目の前の生活や仕事とはどう折り合いをつけていったらいいのでしょうか?



とちぎグローバルセミナー 2023

本セミナーは「とちぎグローバルセミナー2023」のひとつです。他のセミナーについてはこちらから



【日時】 7月29日(土)
13:30～16:00
【講師】 流 和歌子氏
(2030SDGsゲーム公認ファシリテーター)
【対象】 一般(小学校高学年から参加可)
【定員】 45名 (参加費) 無料
主 催 : 公益財団法人 とちぎ YMCA

申込み 公益財団法人栃木県国際交流協会(TIA) TEL 028-621-0777
問合せ 〒320-0033 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内

【受付時間】 9:00～17:00 【休館日】 日曜・月曜・祝日 募集開始は6月21日(水)から

◆駐車場に限りがあります。公共交通機関の利用にご協力下さい。◆県庁前バス停から徒歩5分、東武宇都宮駅から徒歩5分

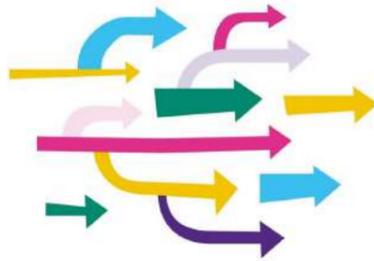
ICEP プログラム アメリカの中学生が来日します!

ICEPプログラムを通して、7月7日～8月6日の1か月間、アメリカから中学3年生が16名来日します。6月上旬よりホームページで交流プログラムへの参加者やボランティア、ホームステイの受け入れ家庭を募集いたします!

*ICEP(International Camper's Exchange Program)とは、青少年国際交流キャンプのことで、1963年にアメリカ東海岸にあるBecket-Chimney Corners YMCAで始まり、スウェーデン、ロシア、タイ、チリ、オーストラリア、日本などで実施されています。2020年から新型コロナウイルスの影響で休止していましたが、今年度から再開されることになりました。

【主な交流プログラム(予定)】

7月8日(土)	ウェルカムパーティ
7月22日(土)	釜川クリーニング&オリオン通り散策(高校生・大学生)
7月24～25日(月～火)	English camp(小学生～中学生)
7月29日(土)	ユース交流会(高校生・大学生)
7月26～31日(水～月)	ホームステイ
8月1～3日(火～木)	3DAYS
8月5日(土)	さよならパーティ



2023年2月3月から実施していた「海外からの学生の受け入れ拠点を作り、多文化共生発信基地を作りたい!」クラウドファンディングについて400万円目標のところ、1,105,220円で達成することはできませんでした。しかしながらたくさんの方々のご支援とご声援を頂きましたことを心より感謝申し上げます。引き続き、様々な背景を持つ人々が集いたいと思える居場所作りに挑戦し続けて参ります。この度はご支援・ご協力を頂き、本当にありがとうございました。

月刊#(ハッシュタグ)



第25回 #なにそれなにそれ

とちぎYMCA総理事
塩澤 達俊

#太陽の塔#岡本太郎#大陸合理論#ドイツ観念論#唯物論#有神論

遅ればせながら塩澤達俊(たっちゃんリーダー)個人についての自己紹介です。白状しますが、私というニンゲンを形づくっている大きなパーツに「哲学」があります。そのルーツは生まれつきのクリスチャン・ホーム(プロテスタント的キリスト教2世)を振り出しに、大陸合理論(デカルト)～ドイツ観念論(カント)経由で～実存主義(ハイデッガー、サルトル、キェルケゴール)～現象学(フッサール)を経て公共哲学(ハーバーマス、ハンナ・アーレント)へと辿り着いた、ちょっと古臭い哲学徒です。

多くの方はテツガク(哲学)!と聞くと、小難しい理屈をこねる観念論者と思われるかもしれませんが、そうではありません。わたしは、共生社会やSDGs的な世界観が当たり前となった今日、人間的なあまりにも人間的な観念論、あるいは「人間中心主義」こそ最も《野蛮》なものである!と考えています。



フランスの現代哲学者ジョルジュ・バタイユは低次唯物論(くだらないと思われるモノこそ優位)を唱えました。わたしは生粋のクリスチャンですから(神的あるいは霊的なものをアリでしょ!と考えることにおいて)決して唯物論者ではありませんが、一方で、人間も所詮、太古から脈々と続く生命の営みの一部に過ぎないと思(ニンゲンによって低次でほとんど物的に扱われそうな)アメーバ生命ともどっこい、どっこいと思っています。ですからニンゲンは、その単純さと力強さにおいて低次唯物論的な存在者に対してすら到底かなわない側面もあるかもしれません。少なくとも、ニンゲンという種もアメーバや「一粒の麦」に等しい存在者に過ぎないとも考えられ、低次唯物論優位的なコンセプト、例えば1970年の万博でもっとも異様で過激なメッセージは放った岡本太郎の《太陽の塔》(科学万能主義に抗して人間はアメーバにすら及ばないという謙虚さと畏敬を放った)のコンセプトに共感することもアリですね。

ですから私は、YMCAもキリスト教の国から人間中心的な宗教と思想を拓くためにやって来たのではなく、むしろ、どんなに素朴であっても、プリミティブであっても、異教徒的・異文化的であっても、更には物質の延長にすぎない存在と思われても、あらゆる霊的な営みについて、あらゆる物/モノ/者/生命/いのちと同じ地平に過ぎないのだ、という謙虚さを正面に掲げ、本物の調和とハイワを求めてゆくことのできる多文化共生的運動体であるべきと考えているのです。

高校生ボランティアグループ「つぼみ」

つぼみ通信 vol.3



世界の子どもたちにワクチンを!



つぼみでは2年前からペットボトルキャップの回収も行っています。先日つぼみのリーダーがそれぞれ持ち寄り集まった沢山のキャップを、汚れているものは一つひとつ丁寧に水洗いをし、綺麗

にする作業を行いました。昨年度集めたキャップの総数は、90ℓの袋が8袋分にもなりました。集めたキャップは1kgでワクチン1つに生まれ変わります。よく学校やお店でキャップを集めているのを見たことがあるかと思いますが、実際にそれらがどのように使われているかをご存じの方は多くないかと思ひます。つぼみではSDGsに関連付けた活動を行う上でこのような活動にも積極的に参加しています。

いつも何気なくペットボトル飲料を買って、飲んだら捨てる。今回の活動で、そのような習慣を少し変えるだけで誰かの命を助けることができるかもしれない。と思い、とても素敵なことだと感じました。みなさんもぜひ身近なことから出来ることを始めてみませんか?

宇都宮北高校3年 南谷珠安(じゅ〜リーダー)